墨絵のテーマとなった農民一揆は１８１２年に起きた。
佐伯藩による重税や悪行に苦しんだ農民のリーダーらが寺に
集まり、藩への要望「願望状十ヶ条」をまとめた。
裏山に集結した農民五千人は鐘の音を合図に佐伯藩に強訴
する一揆に向かったと伝えられています。
ふすまには7匹の竜が荒々しく躍り、人間の脚など
体の一部が隠し描かれている。

墨絵師　西本　祐貴

鹿児島県出身
福岡県内のデザイン学校を卒業後、墨汁と筆を使って絵を描く
パフォーマンスを始めた。
下書きなしの迫力あるライブパフォーマンスはたちまち注目を
集め、人気ゲームのキャラクターデザインをするなど国内外で
活躍している。

ふすま絵は年に一度、大みそかの除夜の鐘に合わせて公開します。
通常は公開していないので、1時間限定の貴重な一般公開です。
当時の農民の思いを想像しながら、ご覧ください。

【場】正定寺
【処】佐伯市直川仁田原４０９７
【時】２０１６年１２月３１日(土)　２３時４５分～１時間
【駐】仁田原公民館前、直川園前駐車場、直川園グラウンド
【料】参拝無料